

編集 後記

来年(2008年)4月より本学もいよいよ法人化大学として再出発する。長らく親しまれてきた京都府立医科大学という単独の名称は今年かぎりであると同時に創立135周年の節目として、是非とも、記録となる記念誌を発刊したいという学長の強い思いにより、大学構成員総出で8月中旬より編纂を始めた。

原稿締切は9月14日であったが、予定していた全ての原稿が集まったのは10月3日であった。そこから、ゲラとなるWordの印刷原稿をe-mailで依頼者に送り、修正をお願いしたが、印刷デッドラインの11日まで原稿修正が絶えなかった。さらに深刻な問題は、編集方針を大学院大学の枠組みでスタートしたが、現実には教室単位で運営されているために、如何なる教室名で表記するのがよいか定まらず、印刷業者を待たしてまで、教授会の深刻な議題となった。結局、大学院大学の枠組みではなく、学部教室名を使用することで決着がついた。文科省の大学いじりがこの様な所にまで影響するのである。

編集を終えて、IT化の素晴らしさをつくづく感じた。文書校正は、当方が送信したゲラe-mailを先方が訂正して返信してもらう方法である。また、目次という要から再編集するのに要する時間は3時間程度で済んだ。これらの手段がなければ、3週間で記念誌はとても作れなかったであろう。本年11月1日に催される本学創立135周年記念式典で本紙をお渡しできるのが楽しみである。創立150周年記念誌編纂はもっと素晴らしい印刷技術で1日で製本できているかもしれない。その様な妙技を是非とも知りたいところである。

本誌の表紙は現在福井大学麻酔科准教授廣瀬先生の御母上で、書家で活躍されている廣瀬和子先生にお願いした。紙面を借りてお礼申し上げる。また、限られた時間で、しかも素人のやつつけ製本だから、数々のお見苦しいところが有ると思うが、不備な点については平にお許しいただきたい。

Y. T.